

令和元年度

授業シラバス・年間指導計画

地歴・公民(3年)

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	科	履修年次
地理歴史	世界史B (世界史Bα・β)	4	普通科	3
履修形態	授業形態	指導者名		
選択	一斉授業	地歴科担当者		

教科書（発行所）	『詳説世界史B』（山川出版社）
教科書以外の教材（発行所）	『世界史B用語集』（山川出版社） 『タペストリー世界史』（帝国書院） 『世界史Bスタンダードテスト』（山川出版社）

目 標	世界の歴史の大きな枠組みと流れを、我が国の歴史と関連付けながら理解させ、文化の多様性と現代世界の特質を広い視野から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。		
学習のねらい	1 諸地域世界の結合と変容 アジアの繁栄とヨーロッパの拡大を背景に、諸地域世界の結合が一層進んだことを把握させるとともに、主権国家体制を整え工業化を達成したヨーロッパの進出により、世界の構造化と社会の変容が促されたことを理解させる。 2 地球世界の形成 科学技術の発達や生産力の著しい発展を背景に、現代世界は地球規模で一体化し、相互依存を強めたことを理解させる。また、国際対立と国際協調、科学技術と現代文明などの観点から20世紀の歴史の特質を考察させ、未来を展望させる。		
定期考査 など	出題方針	教科書の内容を中心に、研究ノートや授業プリントなどからも出題する。	
	範囲 (予定)	第1回考査	近代ヨーロッパの成立 ヨーロッパ主権国家体制の展開
		第2回考査	欧米における近代社会の成長、 欧米における近代国民国家の発展、
		第3回考査	アジア諸地域の動揺、 冷戦とアジア・アフリカ世界の自立など
		第4回考査	米・ソ両大国の動揺と国際経済の危機、 現代世界
評価の観点・ 評価の方法	○評価の観点は、世界の歴史の大きな枠組みと流れに対する関心・意欲・態度、歴史的現象や現代世界の特質に関する見方や考え方、資料活用の技能・表現、知識・理解の4項目とする。 ○具体的な評価は、定期考査などの考査に加え、授業の中での考察、授業プリントの確認、課題提出などを適切に活用して総合的に行う。		
先生からアドバイス (予習・復習の方法、 授業の受け方、ノート の取り方など)	授業では図表と授業プリントを駆使して、基本用語や歴史の流れ、地図をしっかりと覚えよう。その日のうちに本日の学習内容を復習する習慣をつけておくこと。各章が終わったら、その地域や時代の流れを自分なりにまとめ、教科書を読んで全体の流れを復習すること。テスト前は『研究ノート』の問題を完全に解けるように何度も繰り返し解いてみる。また、普段から、新聞・ニュース報道・インターネット等により現代の世界状況にも関心をもちましょう。		

年 間 授 業 計 画 表				
期	部	学 習 内 容	時数	学習のポイント
前	第Ⅱ部	9章 近代ヨーロッパの成立 1 ヨーロッパ世界の拡大 2 ルネサンス 3 宗教改革 4 主権国家体制の形成 10章 ヨーロッパ主権国家体制の展開 1 重商主義と啓蒙専制主義 2 ヨーロッパ諸国の海外進出 3 17～18世紀のヨーロッパ文化 11章 欧米における近代社会の成長 1 産業革命 2 アメリカ独立革命 3 フランス革命とナポレオン 12章 欧米における近代国民国家の発展 1 ウィーン体制 2 ヨーロッパの再編 3 アメリカ合衆国の発展 4 19世紀欧米文化 13章 アジア諸地域の動揺 1 オスマン帝国支配の動揺とアラブのめざめ 2 南アジア・東南アジアの植民地化 3 東アジアの激動 14章 帝国主義とアジアの民族運動 1 帝国主義と列強の展開 2 世界分割と列強対立 3 アジア諸国の改革と民族運動	78	- ルネサンスや宗教改革などヨーロッパでの政治・文化の変革 - 新航路の開拓とそれによるアメリカ大陸の変貌 16世紀の世界の一体化への動き - 主権国家体制の特色 - 主権国家によるヨーロッパの国際関係と商業覇権の推移 - 奴隷貿易と大西洋三角貿易 17・18世紀の文化の特徴 - イギリス産業革命の背景と展開 - 資本主義経済の確立とイギリスの繁栄 - 労働運動や社会主義思想の発生 - アメリカ独立革命、フランス革命、ナポレオン時代、ラテンアメリカ諸国の独立の経過と革命の意義と影響 - ウィーン体制の特色と体制下の各地の自由主義・ナショナリズムの高まり - アメリカ合衆国の発展と移民の流入、人種・民族問題 - ヨーロッパ諸国の進出によるアジア諸国の変容 19世紀の世界の一体化への動き - 帝国主義と各国の国情 - インド、中国などアジア諸国の民族運動
		15章 二つの世界大戦 1 第一次世界大戦とロシア革命 2 ヴェルサイユ体制下の欧米諸国 3 アジア・アフリカ民族主義の進展 4 世界恐慌とファシズム諸国の侵略 5 第二次世界大戦 16章 冷戦とアジア・アフリカ世界の自立 1 東西対立のはじまりとアジア諸地域の自立 2 冷戦構造と日本・ヨーロッパの復興 3 第三世界の自立と危機 4 米・ソ両大国の動揺と国際経済の危機 17章 現代世界 1 冷戦の解消と世界の多様化 2 ソ連・東欧社会主義圏の解体とアジア圏社会主義国の転換 3 第三世界の多元化和地域紛争 4 現代文明 世界史B全範囲の復習・まとめ	78	- 第一次大戦の経過と影響 - 戦後協調主義の発展と各国の経済状況 - 戦後世界の変化と特質 - 世界恐慌とファシズムの広がり - 第二次大戦の経過と影響 - 米・ソ両陣営の対立と民族独立運動の動向 1960～70年代までの世界の政治・経済の動向 - 第三世界の形成と冷戦の深まり - 米ソの動揺と石油危機 1980年代から現在までの地球社会形成に向けての、諸地域世界の情勢の大きな流れ - これからの世界と日本の課題 - 現代文明の特質 - 問題演習による復習
後	第Ⅲ部	15章 二つの世界大戦 1 第一次世界大戦とロシア革命 2 ヴェルサイユ体制下の欧米諸国 3 アジア・アフリカ民族主義の進展 4 世界恐慌とファシズム諸国の侵略 5 第二次世界大戦 16章 冷戦とアジア・アフリカ世界の自立 1 東西対立のはじまりとアジア諸地域の自立 2 冷戦構造と日本・ヨーロッパの復興 3 第三世界の自立と危機 4 米・ソ両大国の動揺と国際経済の危機 17章 現代世界 1 冷戦の解消と世界の多様化 2 ソ連・東欧社会主義圏の解体とアジア圏社会主義国の転換 3 第三世界の多元化和地域紛争 4 現代文明 世界史B全範囲の復習・まとめ	156	
総 時 間 数			156	

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	科	履修年次
地理歴史	世界史B（世界史実践）	1	普通科	3
履修形態	授業形態	指導者名		
選択	一斉授業	地歴科担当者		

教科書（発行所）	『詳説世界史B』（山川出版社）
教科書以外の教材（発行所）	『世界史B用語集』（山川出版社） 『タペストリー世界史』（帝国書院）

目 標	世界の歴史の大きな枠組みと流れを、我が国の歴史と関連付けながら理解させ、文化の多様性と現代世界の特質を広い視野から考察させることにより、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。
学習のねらい	1 諸地域世界の形成 人類は各地の自然環境に適応しながら農耕や牧畜を基礎とする文明を築き上げ、やがてそれらを基により大きな地域世界を形成したことを把握させる。 2 諸地域世界の交流と再編 ユーラシアの内陸及び海域のネットワークを背景に、諸地域世界の交流が一段と活発になり、新たな地域世界の形成や再編を促したことを把握させる。 3 地球世界の形成 科学技術の発達や生産力の著しい発展の背景に、現代世界は地球規模で科学化し、相互依存を強めたことを理解させる。また、国際対立と国際協調、科学技術と現代文明などの観点から20世紀の歴史の特質を考察させ、未来を展望させる。
評価の観点・評価の方法	○評価の観点は、世界の歴史の大きな枠組みと流れに対する関心・意欲・態度、歴史的事象や現代世界の特質に関する見方や考え方、資料活用、技能・表現、知識・理解の4項目とする。 ○この授業単体での評価は行わず、具体的な評価は、授業の中での考察、問題集による確認、課題提出などを適切に活用して総合的に行う。この授業の評価は「世界史Bα」と併せて評価するものとする。
先生からアドバイス（予習・復習、授業の受け方、ノート取り方）	教科書を読み、歴史の流れをおおまかに理解しよう。地図や写真を参考にし、それぞれの時代の出来事を想像してみよう。また、新聞・ニュース報道・インターネット等により現代の状況にも注意しておこう。授業は、2年次の既習範囲も含めた世界史Bの学習内容の補足やまとめを中心に行います。世界史Bのシラバスも参照しなさい。

年間授業計画表			
学期	学習内容	時数	学習のポイント
前期	9章 近代ヨーロッパの成立 10章 ヨーロッパ主権国家体制の展開 11章 欧米における近代社会の成長 12章 欧米における近代国民国家の発展	20	- ルネサンス・宗教改革の意義 - 覇権国家の変遷と17～18世紀の文化 - アメリカ独立革命・フランス革命・産業革命の意義とその影響 - 国民国家の成立と発展 19世紀欧米の文化
後期	13章 アジア諸地域の動揺 14章 帝国主義とアジアの民族運動 15章 二つの世界大戦 16章 冷戦とアジア・アフリカ世界の自立 17章 現代世界 世界史B全範囲の復習とまとめ	19	- オスマン帝国・ムガル帝国の盛衰 - インド及び清に対するヨーロッパ列強の進出と民族運動 - アフリカ・太平洋地域の分割 19世紀末～20世紀前半のヨーロッパ史 - 世界恐慌とファシズム諸国の侵略 - 冷戦期のヨーロッパとアジア - 冷戦の解消と南北問題 - 問題演習による復習
	総 時 間 数	39	

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	科	履修年次
地理歴史	世界史研究	2	普通科	3
履修形態	授業形態	指導者名		
選択	一斉授業	地歴科担当者		

教科書（発行所）	『詳説世界史B』（山川出版社）
教科書以外の教材（発行所）	『世界史B用語集』（山川出版社） 『タペストリー世界史』（帝国書院） 『世界史Bスタンダードテスト』（山川出版社）

目 標	世界の歴史の大きな枠組みと流れを、我が国の歴史と関連付けながら理解させ、文化の多様性と現代世界の特徴を広い視野から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。
学習のねらい	(1)古代～現代の世界史の概要 古代から現代までの世界の歴史の流れを概観する。 各世紀における世界の様子をまとめるなどして、同時代の各地域の歴史的状况を理解する。 (2)各地域の文化・宗教のまとめ 宗教を中心とする文化の特徴や形成過程を各地域（インド・東アジア・西アジア・ヨーロッパ・アフリカなど）の地理的特徴などもふまえてまとめ、世界の多様性について理解する。 (3)地域間交流 東西交易路やそれを利用して移動した人物を取りあげ、地域間交流のまとめやその意義を考察させる。 (4)現代社会における国際問題とその歴史的背景について 現代社会における諸問題を課題として選択させ、その背景として考えられる歴史的事象や文化の特徴についてまとめる。その上で、問題解決への課題についても自分なりに考察する。
評価の観点・評価の方法	○評価の観点は、世界の歴史の大きな枠組みと流れに対する関心・意欲・態度、歴史的事象や現代世界の特徴に関する見方や考え方、資料活用の技能・表現、知識・理解の4項目とする。 ○具体的な評価は、授業の中での考察、問題集の確認、課題提出などを適切に活用して総合的に行う。
先生からアドバイス（予習・復習、授業の受け方、ノートの取り方）	教科書を読み、歴史の流れをおおまかに理解しよう。地図や写真を参考にして、それぞれの時代の出来事を想像してみよう。また、新聞・ニュース報道・インターネット等により現代の状況にも注意しておこう。 この授業では、世界史Bの学習内容の補足や問題演習も行います。 世界史Bのシラバスも参照しなさい。

年間授業計画表			
	学 習 内 容	時数	学習のポイント
前 期	(1)地域史の概観 ①オリエント文明の形成と発展 ②東アジア世界と内陸アジア・東南アジア世界への影響 ③中世ヨーロッパ世界の概観 ④東ヨーロッパ世界の概観 (2)各地域の文化・宗教のまとめ ①アジア世界の文化と宗教	39	オリエントに形成された古代文明と周辺地域への政治的・文化的影響について考察する。 中国を中心とする東アジア世界の特徴を理解し、内陸アジア、東南アジア地域に与えた影響について考察する。 中世ヨーロッパ世界の特徴を理解し、近世社会への影響について考察する。 東ヨーロッパ世界の特徴を理解し、西ヨーロッパとの違いについて理解する。
	②ヨーロッパ世界の文化と宗教 ③アフリカ世界の文化と宗教 ④その他の地域の文化と宗教		西アジア地域の文化とユダヤ教・イスラーム教、南アジア地域の文化と仏教・ヒンドゥー教とその他の宗教、東アジア地域の文化と仏教・道教について、それぞれの特徴について理解し、異宗教間の共通点や相違点についても考察する。 東西ヨーロッパ地域の文化とキリスト教について、その特質やユダヤ教・イスラーム教などの異宗教との関わりや影響についても考察する。 アフリカ地域の固有の文化とキリスト教・イスラーム教の伝播がこの地域に与えた影響について考察する。
	(3)地域間交流のまとめ ①ヨーロッパ世界とアジア世界の交流 ②アジア地域の交流 ③ヨーロッパ世界とアフリカ世界の交流 一体化する世界		南北アメリカの固有の文化とキリスト教の伝播がこの地域に与えた影響について考察する。
	(4)生徒各自による課題探究 ①テーマの選定 ②テーマの研究 ③テーマの発表		
後 期		39	3本の東西交易路が地域間交流に果たした役割について考察する。 アジア地域の活発な交易活動についてまとめる。 ヨーロッパ人によるアフリカ探検から、奴隷貿易の開始、ヨーロッパ諸国によるアフリカの植民地化についてまとめる。 現代世界において、ヒト・モノ・カネの交流が活発化し、ボーダーレス化・グローバル化が進んでいることについて考察する。
			現代社会における国際問題を1つとりあげて各自のテーマとする。 各自が選定したテーマについて研究する。 自分の研究成果について発表する。
総 時 間 数		78	

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	科	履修年次
地理歴史	日本史B（日本史Bα）	4	普通科	3
履修形態	授業形態	指導者名		
選択	一斉授業	地歴科担当者		

教科書（発行所）	『詳説日本史』（山川出版社）
教科書以外の教材（発行所）	『新詳日本史』（浜島書店）『改訂版詳録新日本史史料集成』（第一学習社）『日本史用語集』『日本史総合テスト』（山川出版社）『日本史B一問一答完全版』（ナガセ）

目 標	わが国の歴史の展開を、世界史的視野に立って総合的に考察させ、わが国の文化と伝統の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。		
学習のねらい	1 歴史を考察する基本的な方法を理解させるとともに、主題を設定して追求する学習、地域社会にかかわる学習を通して、歴史への関心を高め、歴史的な見方や考え方を身に付けさせる。 2 原始社会の人々の生活の変化大和朝廷による統一、律令に基づく古代国家の成立と推移及び文化の形成について、東アジア世界の動きとも関連づけて理解させる。 3 武家政権の成立から戦国大名の時代に至る武家社会の進展と文化の展開について東アジア世界の動向と関連づけて理解させる。 4 織豊政権及び幕藩体制の特色と推移、社会・文化の動向について、国際関係の変化とその影響にも触れながら理解させる。 5 開国・幕府の滅亡と新政府の成立からの明治時代の近代日本の歩みについて、アジアにおける国際環境と関連付けて考察させる。 6 第一次世界大戦から第二次世界大戦に至る我が国の歴史について、世界情勢と国内の動きを関連付けて考察させる。 7 第二次世界大戦の終結から今日に至る我が国の歴史について、世界の動向と関連付けて考察させるとともに、広い視野から日本の文化や課題について認識させる。		
定 期 考 査	出題方針	教科書の内容を中心に出題する。	
	範 囲 (予定)	1回考查	日本文化のあけぼの～貴族政治と国風文化
		2回考查	中世社会の成立～武家社会の成長
		3回考查	幕藩体制の確立～幕藩体制の動揺
		4回考查	近代国家の成立～激動する世界と日本
評価の観点・ 評価の方法	○評価の観点は、わが国の歴史の展開に対する関心・意欲・態度、社会科学的な見方や考え方、資料活用の技能・表現、知識・理解の4項目とする。 ○具体的な評価は、定期考查に加え、授業の中での考察、問題集確認、課題提出などを適切に活用して総合的に行う。		
先生からアドバイス (予習・復習の方法、 授業の受け方など)	教科書の記述内容のみでなく、図説の資料や新聞・ニュース報道、またさまざまな書籍に親しむことにより、より深く歴史や文化について考察して欲しい。予習復習は教科書・用語集を利用すること。		

年 間 授 業 計 画 表					
学期	月	単元	学 習 内 容	時数	学習のポイント
	4	第	第1章 日本文化のあけぼの		
			1 文化のはじまり	2	遺物や写真パネル等で興味を引く
			2 農耕社会の成立	3	最新の時代観を示し、興味を引く

前 期	5 部	3 古墳とヤマト政権	3 東アジアの中の日本の位置付けに注意
		1 第2章 律令国家の形成	3 厩戸王の業績と飛鳥文化を強調
		1 飛鳥の朝廷	4 律令体制下の農民負担を把握させる
		2 律令国家への道	3 平城京の政権担当者の盛衰を理解させる
		3 平城京の時代	3 シルクロードの東端としての位置付け
		4 天平文化	3 脱仏教政治としての平安朝廷を把握
		5 平安朝廷の形成	
		第3章 貴族政治と国風文化	3 貴族政治としての摂関を把握する
		1 摂関政治	3 貴族文化の典型としての国風文化
		2 国風文化	4 地方の混乱から武士が発生すること
7 部	6	3 地方政治の展開と武士	
	第4章 中世社会の成立	4 古代勢力が分裂する過程での院政出現	
	1 院政と平氏の台頭	4 最初の武家政権の成立条件を把握させる	
	2 鎌倉幕府の成立	4 支配者としての武士の再生産の仕組み	
	3 武士の社会	4 諸外国との関係と幕府の衰退	
	4 蒙古襲来と幕府の衰退	3 武士文化と貴族文化の差に注意	
	5 鎌倉文化		
	第5章 武家社会の成長	3 貴族政権を吸収した武家政権の誕生	
	1 室町幕府の成立	4 将軍と家臣団との確執と庶民の台頭	
	2 幕府の衰退と庶民の台頭	3 武家・公家文化の融合	
8 部	3 室町文化	3 中世的領有制を乗り越える戦国大名登場	
	4 戦国大名の登場		
	第6章 幕藩体制の確立	3 戦国大名の淘汰により統一権力の出現	
	1 織豊政権	2 大名・豪商を背景とした絢爛豪華な文化	
	2 桃山文化	4 近世的領有制の仕組みを理解する	
	3 幕藩体制の成立	4 幕藩体制の構造を理解する	
	4 幕藩体制の構造		
	第7章 幕藩体制の展開	4 文治政治による幕政の安定を理解	
	1 幕政の安定	3 元禄期の経済発展による町人の台頭	
	2 経済の発展	3 上方商人を中核とした庶民文化の発展	
後 期	10 部	3 元禄文化	
		第8章 幕藩体制の動揺	4 財政改革のための三大改革の成功失敗
		1 幕政の改革	3 文化の爛熟と批判思想の弾圧
		2 宝暦・天明期の文化	3 農民支配の後退と幕府の衰退
		3 幕府の衰退と近代への道	3 文化の爛熟と批判思想の弾圧
		4 化政文化	
		第9章 近代国家の成立	3 尊攘運動と開国進取思想の相克
		1 開国と幕末の動乱	3 天皇制的近代国家と民衆運動の対立
		2 明治維新と富国強兵	3 藩閥勢力と民衆の対立と接近
		3 立憲国家の成立と日清戦争	3 植民地支配と列強への仲間入り
11 部	4 日露戦争と国際関係	3 日本の資本主義と劣悪な労働環境	
	5 近代産業の発展	3 科学・芸術の急速な向上	
	6 近代文化の発達		
	第10章 近代日本とアジア	3 農業国から工業国への転換	
	1 第一次世界大戦と日本	3 第一次大戦後の世界体制と日本の位置	
	2 ワシントン体制	2 大衆文化の成長	
	3 市民生活の変容と大衆文化	2 度重なる失政による経済破綻	
	4 恐慌の時代	3 デモクラシー弾圧と国家主義・軍国主義台頭	
	5 軍部の台頭	3 軍国主義の暴走と破綻	
	6 第二次世界大戦		
12 部	第11章 占領下の日本	3 民主主義建設の過程を戦後改革で理解	
	1 占領と改革	2 米ソの東西対立構造と日本の選択	
	2 冷戦の開始と講和	4 日本の資本主義の復興	
	第12章 高度成長の時代	3 低成長時代と国民生活の停滞	
	第13章 激動する世界と日本	8	
	《定期考査》《模試模試》		
	総時間数	156	

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	科	履修年次
地理歴史	日本史B（日本史実践）	1	普通科	3
履修形態	授業形態	指導者名		
選択	一斉授業	地歴科担当者		

教科書（発行所）	『詳説日本史』（山川出版社）
教科書以外の教材（発行所）	『新詳日本史』（浜島書店）『日本史用語集』『日本史総合テスト』（山川出版社）『日本史B一問一答完全版』（カギ）

目 標	わが国の歴史の展開を、世界史的視野に立って総合的に考察させ、わが国の文化と伝統の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。		
学習のねらい	1 歴史を考察する基本的な方法を理解させるとともに、主題を設定して追求する学習、地域社会にかかわる学習を通して、歴史への関心を高め、歴史的な見方や考え方を身に付けさせる。 2 原始社会の人々の生活の変化大和朝廷による統一、律令に基づく古代国家の成立と推移及び文化の形成について、東アジア世界の動きとも関連づけて理解させる。 3 武家政権の成立から戦国大名の時代に至る武家社会の進展と文化の展開について東アジア世界の動向と関連づけて理解させる。 4 織豊政権及び幕藩体制の特色と推移、社会・文化の動向について、国際関係の変化とその影響にも触れながら理解させる。 5 開国・幕府の滅亡と新政府の成立からの明治時代の近代日本の歩みについて、アジアにおける国際環境と関連付けて考察させる。 6 第一次世界大戦から第二次世界大戦に至る我が国の歴史について、世界情勢と国内の動きを関連付けて考察させる。 7 第二次世界大戦の終結から今日に至る我が国の歴史について、世界の動向と関連付けて考察させるとともに、広い視野から日本の文化や課題について認識させる。		
定 期 考 査	出題方針	日本史Bの試験に含めて実施する。教科書の内容を中心に出题する。	
	範 囲 (予定)	1回考査	日本文化のあけぼの～貴族政治と国風文化
		2回考査	中世社会の成立～武家社会の成長
		3回考査	幕藩体制の確立～幕藩体制の動揺
		4回考査	近代国家の成立～激動する世界と日本
評価の観点・ 評価の方法	○評価の観点は、わが国の歴史の展開に対する関心・意欲・態度、社会科学的な見方や考え方、資料活用の技能・表現、知識・理解の4項目とする。 ○具体的な評価は、定期考査に加え、授業の中での考察、問題集確認、課題提出などを適切に活用して総合的に行う。		
先生からアドバイス (予習・復習の方法、 授業の受け方など)	教科書の記述内容のみでなく、図説の資料や新聞・ニュース報道、またさまざまな書籍に親しむことにより、より深く歴史や文化について考察して欲しい。予習復習は教科書・用語集を利用すること。		

年 間 授 業 計 画 表					
学期	月	単元	学 習 内 容	時数	学習のポイント
	4	第1章	第1章 日本文化のあけぼの 1 文化のはじまり 2 農耕社会の成立	1 1	遺物や写真パネル等で興味を引く 最新の時代観を示し、興味を引く

前 期	5 部	1	3古墳とヤマト政権	1	東アジアの中の日本の位置付けに注意
		6	第2章 律令国家の形成	1	厩戸王の業績と飛鳥文化を強調
			1飛鳥の朝廷	1	律令体制下の農民負担を把握させる
			2律令国家への道	1	平城京の政権担当者の盛衰を理解させる
			3平城京の時代	1	シルクロードの東端としての位置付け
			4天平文化	1	脱仏教政治としての平安朝廷を把握
		7	第3章 貴族政治と国風文化	1	貴族政治としての摂関を把握する
			1摂関政治	1	貴族文化の典型としての国風文化
			2国風文化	1	地方の混乱から武士が発生すること
			3地方政治の展開と武士		
第4章 中世社会の成立	1		古代勢力が分裂する過程での院政出現		
後 期	4 部	1	1院政と平氏の台頭	1	最初の武家政権の成立条件を把握させる
		2鎌倉幕府の成立	1	支配者としての武士の再生産の仕組み	
		3武士の社会	1	諸外国との関係と幕府の衰退	
		4蒙古襲来と幕府の衰退	1	武士文化と貴族文化の差に注意	
		5鎌倉文化			
		第5章 武家社会の成長	1	貴族政権を吸収した武家政権の誕生	
		1室町幕府の成立	1	将軍と家臣団との確執と庶民の台頭	
		2幕府の衰退と庶民の台頭	1	武家・公家文化の融合	
		3室町文化	1	中世的領有制を乗り越える戦国大名登場	
		4戦国大名の登場			
後 期	3 部	第6章 幕藩体制の確立	1	戦国大名の淘汰により統一権力の出現	
		1織豊政権	1	大名・豪商を背景とした絢爛豪華な文化	
		2桃山文化	1	近世的領有制の仕組みを理解する	
		3幕藩体制の成立	1	幕藩体制の構造を理解する	
		4幕藩体制の構造			
		第7章 幕藩体制の展開	1	文治政治による幕政の安定を理解	
		1幕政の安定	1	元禄期の経済発展による町人の台頭	
		2経済の発展	1	上方商人を中核とした庶民文化の発展	
		3元禄文化			
		後 期	12 部	第8章 幕藩体制の動揺	1
1幕政の改革	1			文化の爛熟と批判思想の弾圧	
2宝暦・天明期の文化	1			農民支配の後退と幕府の衰退	
3幕府の衰退と近代への道	1			文化の爛熟と批判思想の弾圧	
4化政文化	2				
第9章 近代国家の成立	2			尊攘運動と開国進取思想の相克	
1開国と幕末の動乱				天皇制的近代国家と民衆運動の対立	
2明治維新と富国強兵				藩閥勢力と民党の対立と接近	
3立憲国家の成立と日清戦争				植民地支配と列強への仲間入り	
4日露戦争と国際関係				日本の資本主義と劣悪な労働環境	
後 期	1 部	5近代産業の発展		科学・芸術の急速な向上	
		6近代文化の発達	3	農業国から工業国への転換	
		第10章 近代日本とアジア		第一次大戦後の世界体制と日本の位置	
		1第一次世界大戦と日本		大衆文化の成長	
		2ワシントン体制		度重なる失政による経済破綻	
		3市民生活の変容と大衆文化		デモクラシー弾圧と国家主義・軍国主義台頭	
		4恐慌の時代		軍国主義の暴走と破綻	
		5軍部の台頭	1	民主主義建設の過程を戦後改革で理解	
		6第二次世界大戦		米ソの東西対立構造と日本の選択	
		第11章 占領下の日本	1	日本の資本主義の復興	
1占領と改革		低成長時代と国民生活の停滞			
2冷戦の開始と講和	1				
第12章 高度成長の時代	1				
第13章 激動する世界と日本	1				
総時間数				39	

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	科	履修年次
地理歴史	日本史研究	2	普通科	3
履修形態	授業形態	指導者名		
選択	一斉授業	地歴科担当者		

教科書（発行所）	『詳説日本史』（山川出版社）
教科書以外の教材（発行所）	『新詳日本史』（浜島書店）『改訂版詳録新日本史史料集成』（第一学習社）『日本史用語集』『日本史総合テスト』（山川出版社）『日本史B 一問一答完全版』（かも）

目 標	我が国の歴史の展開を、世界史的視野に立って総合的に考察させ、我が国の文化と伝統の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。		
学習のねらい	1 原始社会の人々の生活の変化大和朝廷による統一、律令に基づく古代国家の成立と推移及び文化の形成について、東アジア世界の動きとも関連付けて理解させる。 2 武家政権の成立から戦国大名の時代に至る武家社会の進展と文化の展開について東アジア世界の動向と関連付けて理解させる。 3 織豊政権及び幕藩体制の特色と推移、社会・文化の動向について、国際関係の変化とその影響にも触れながら理解させる。 4 織豊政権及び幕藩体制の特色と推移、社会・文化の動向について、国際関係の変化とその影響にも触れながら理解させる。 5 開国・幕府の滅亡と新政府の成立からの明治時代の近代日本の歩みについて、アジアにおける国際環境と関連付けて考察させる。 6 第一次世界大戦から第二次世界大戦に至る我が国の歴史について、世界情勢と国内の動きを関連付けて考察させる。 7 第二次世界大戦の終結から今日に至る我が国の歴史について、世界の動向と関連付けて考察させるとともに、広い視野から日本の文化や課題について認識させる。		
考 査 について	出題方針	教科書・問題集などから出題する。	
	単元ごとに復習テストを実施する。		
評価の観点・ 評価の方法	○評価の観点は、我国の歴史の展開に対する関心・意欲・態度、社会科学的な見方や 考え方、資料活用の技能・表現、知識・理解の4項目とする。 ○具体的な評価は、授業中の復習テストに加え、授業の中での考察、問題集確認、課題提出などを適切に活用して総合的に行う。		
先生からアドバイス(予習・復習、 授業の受け方、ノートの取り方)	・教科書を読み、歴史の流れを理解しよう。図説の資料や新聞・ニュース報道、また様々な書籍に親しむことによりより深く歴史や文化について考察して欲しい。 ・史料集・用語集を活用すること。		

年 間 授 業 計 画 表				
期	月	学 習 内 容	時数	学習のポイント
前 期	4	1章 日本文化のあけぼの	4	・東アジアの中の日本の位置付けに注意 ・律令体制下の農民負担を把握 ・貴族政治としての摂関・貴族文化の典型としての国風文化
	5	2章 律令国家の形成	4	
		3章 貴族政治と国風文化 ＜復習テスト＞	4 2	
	6			
	7	4章 中世社会の成立	6	・院政出現・武家政権の成立条件を確認 ・武家・公家文化の融合、庶民の台頭
	8	5章 武家社会の成長 ＜復習テスト＞	6 2	
	9			
		6章 幕藩体制の確立	4	・近世的領有制の仕組みの理解 ・文治政治・町人の台頭 ・三大改革・幕府の衰退
		7章 幕藩体制の展開	4	
		8章 幕藩体制の動揺 ＜復習テスト＞	6 2	
後 期	10	9章 近代国家の成立	4	・天皇制的近代国家・藩閥勢力と民党の対立・列強への仲間入り ・工業国への転換・ワシントン体制 ・占領と改革・冷戦の開始と講和
	11	10章 近代日本とアジア	6	
		11章 占領下の日本 ＜復習テスト＞	4 2	
	12			
	12	12章 高度成長の時代	3	・55年体制・経済復興から高度成長へ ・経済大国への道・冷戦終結と日本社会の動揺
		13章 激動する世界と日本 ＜復習テスト＞	3 2	
	1			
		主題研究	10	○各自主題を設定して研究
		総 時 間 数	78	

教科名	科目名（校内科目名）		単位数	科	履修年次									
地理歴史	地理B		3	普通科・理数科	3									
履修形態	授業形態		指導者名											
選択	一斉授業		地歴科担当者											
教科書（発行所）		『新詳地理B 初訂版』（帝国書院）、『新詳高等地図』（帝国書院）												
教科書以外の教材（発行所）		『新編地理資料2019』（とうほう）、『2019データブックオブザワールド』（二宮書店）、 『地理用語集』（山川出版）												
目 標		現代世界の地理的事象を系統地理的、地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。												
学習のねらいなど		(1)現代世界の系統地理的考察＝①世界の資源・エネルギーや農業、工業、流通などから系統地理的にとらえる視点や方法を学習するのに適切な事例を幾つか取り上げ、世界の資源、産業を大観させる。 ②世界の都市・村落や消費、余暇に関する行動、人々の衣食住などから系統地理的にとらえる視点や方法を学習するのに適切な事例を幾つか取り上げ、世界の都市・村落、生活文化を大観させる。 (2)現代世界の地誌的考察＝地域の規模に応じて地域性を多面的・多角的に考察し、現代世界を構成する各地域は多様な特色をもっていることを理解させるとともに、世界諸地域を規模に応じて地誌的にとらえる視点や方法を身に付けさせる。												
定期考査について		出題方針：教科書、プリントの内容を軸に作成。地図帳、資料集の関連した図表、統計等及び演習プリントからも出題する。 <table><tr><td rowspan="4">出題範囲 (予定)</td><td>第1回考査</td><td>2章 資源と産業 4節 世界のエネルギー・鉱産資源 5節 資源・エネルギー問題 6節 世界の工業（ヨーロッパまで）</td></tr><tr><td>第2回考査</td><td>6節 世界の工業（ヨーロッパ以降） 7節 第3次産業 8節 世界を結ぶ交通・通信 9節 現代世界の貿易と経済圏 3章 人口、村落・都市 1章 世界の人口 2章 人口問題</td></tr><tr><td>第3回考査</td><td>3章 村落と都市 4章 都市・居住問題 4章 生活文化、民族・宗教</td></tr><tr><td>第4回考査</td><td>1章 現代世界の地域区分 2章 現代世界の諸地域 3章 現代世界と日本</td></tr></table>				出題範囲 (予定)	第1回考査	2章 資源と産業 4節 世界のエネルギー・鉱産資源 5節 資源・エネルギー問題 6節 世界の工業（ヨーロッパまで）	第2回考査	6節 世界の工業（ヨーロッパ以降） 7節 第3次産業 8節 世界を結ぶ交通・通信 9節 現代世界の貿易と経済圏 3章 人口、村落・都市 1章 世界の人口 2章 人口問題	第3回考査	3章 村落と都市 4章 都市・居住問題 4章 生活文化、民族・宗教	第4回考査	1章 現代世界の地域区分 2章 現代世界の諸地域 3章 現代世界と日本
出題範囲 (予定)	第1回考査	2章 資源と産業 4節 世界のエネルギー・鉱産資源 5節 資源・エネルギー問題 6節 世界の工業（ヨーロッパまで）												
	第2回考査	6節 世界の工業（ヨーロッパ以降） 7節 第3次産業 8節 世界を結ぶ交通・通信 9節 現代世界の貿易と経済圏 3章 人口、村落・都市 1章 世界の人口 2章 人口問題												
	第3回考査	3章 村落と都市 4章 都市・居住問題 4章 生活文化、民族・宗教												
	第4回考査	1章 現代世界の地域区分 2章 現代世界の諸地域 3章 現代世界と日本												
評価の観点・ 評価の方法		○評価の観点は地理Bで取り扱う諸問題への関心・意欲・態度と現代世界の地理的事象に対する思考力・判断力ならびに資料活用技能により行う。 ○具体的な評価は、定期考査などの考査に加え授業の中での考察、授業プリント確認、課題提出などを適切に活用して総合的に行う。												
先生からアドバイス(予習・復習の方法、授業の受け方、ノートの取り方など)		教科書を各自で読み、授業の流れをおおまかに理解すること。資料集やデータブック、地図や写真を参考にして、それぞれから読み取れることは何かを考える。またそれらの背景にあるものは何か、それぞれの地域での生活・文化を既習範囲の知識と結びつけながら理解するように努める。新聞・ニュース報道・インターネット等での報道に関心を持ち、現実世界の動きと授業内容をリンクさせる機会を多くもつこと。まとめプリント、白地図を利用したアウトプット中心の学習に努めること（まとめる力）。校内模試、定期考査、校外模試などは必ず復習を行い、問題に直接書き込むことでデータを見る目を養うこと。												
年間授業計画表														
期	月	日	学 習 内 容	時数	学習のポイント									
前 期	4		第Ⅱ部 現代世界の系統地理的考察 2章 資源と産業 ・世界の農林水産業 ・世界のエネルギー・鉱産資源	1 4	・世界のエネルギー・鉱産資源について、エネルギー資源の利用と分布、鉱産資源の分布を考察する。 ・資源・エネルギー問題について、現代世界の資源・エネルギー問題を大観し、世界の資源をめぐる問題、エネルギー生産や消費の抱える課題、日本の資源・エネルギー問題を考察する。									
	5		・資源・エネルギー問題 ・世界の工業 ・第3次産業 ・世界を結ぶ交通・通信 ・現代世界の貿易と経済圏											
	6		第Ⅱ部 3章 人口、村落・都市 ・世界の人口 ・人口問題	1 3	・世界の人口について、世界人口の分布の特色や動態、人口構成や人口転換を考察する。 ・人口問題について、世界の人口問題を大観し、発展途上国、先進国、日本の人口問題の事例を考察する。									
	7		・村落と都市 ・都市・居住問題											
	8		4章 生活文化、民族・宗教 ・生活文化 ・民族と宗教 ・現代世界の国家 ・民族・領土問題	1 3	・村落と都市について、村落・都市の立地や発達・機能や、日本の都市の特徴を考察する。 ・民族と宗教について、民族と言語、世界の宗教の分布や特徴、生活との関わりについて考察する。 ・現代世界の民族・領土問題を大観し、日本の民族や領土、世界各地の民族の共生についての課題を考察する。									

後 期	9	第Ⅲ部 現代世界の系統地理的考察 1章 現代世界の地域区分 2章 現代世界の諸地域 ・地誌の考察方法 ・東アジア ・東南アジア	1 4	・東アジアについて、形式的な地域区分に基づき、地形と気候、中国の民族と人口、食生活と農業、工業化と経済発展、中国の動向と日本、朝鮮半島の成り立ち、韓国の産業、隣国との交流という多様な事象を項目ごとに整理して静態的に考察する。 ・東南アジアについて、形式的な地域区分に基づき、自然、歴史と文化・民族、農業と変化、ASEANと工業、ASEAN諸国の変化と諸課題という多様な事象を項目ごとに整理して静態的に考察する。
	10	・南アジア ・西アジアと中央アジア	1 8	・南アジアについて、形式的な地域区分に基づき、地形と気候、歩みとヒンドゥー教、インドの農業と農村、工業・IT産業という多様な事象を項目ごとに整理して静態的に考察する。 ・西アジアと中央アジアについて、乾燥帯が広がる自然環境に着目した地域区分に基づき、自然、イスラームの生活文化、交易と都市、資源と産業の面において、類似的な性格の二つの地域を比較して考察する。 ・北アフリカとサハラ以南のアフリカについて、中近東文化と中南アフリカ文化という文化に着目した地域区分に基づき、気候と植生、歴史的背景と文化、一次産品への依存、生活の変化と他地域との結びつきの面において、対照的な性格の二つの地域を比較して考察する。
	11	・ヨーロッパ ・ロシア ・アングロアメリカ ・ラテンアメリカ ・オセアニア	1 5	・ヨーロッパについて、形式的な地域区分に基づき、気候と大地、ヨーロッパの成り立ち、域内の結びつき、農業と共通農業政策、移り変わる工業、これからのヨーロッパという多様な事象を項目ごとに整理して静態的に考察する。 ・アングロアメリカについて、ゲルマン文化という文化に着目した地域区分に基づき、自然環境、アメリカ合衆国の移民国家としての発展、人口と都市、農業、科学技術と産業、世界のなかのアメリカ合衆国、アメリカ合衆国との結びつきが強いカナダという多様な事象を項目ごとに整理して静態的に考察する。 ・ラテンアメリカについて、ローマン文化という文化に着目した地域区分に基づき、自然環境、文化、大土地所有制と農業の変化、工業化と生活の変化という特色ある事象と他の事象を有機的に関連づけて動態的に考察する。
	12	3章 現代世界と日本 センター過去問演習	1 4	・センター試験過去問の約6～8年分を本試験、追試験に分け演習を積み重ねていく。
	1	ま と め センター試験に向けての演習と地理Bの総復習ならびに市民スキルとしてのGIS（地理情報システム）の利用と防災力・減災力・防犯力・コミュニティ再構築力などの在り方についての現状と将来展望に向けての分析と考察。	1 6	・地理B全ての範囲を、各種問題集を利用しながら総復習行う。 ・特にセンター試験で出やすい問題、項目、図表については綿密な解説を行い実践力を養う。市民としての在り方を展望して「地理B」の総まとめを行っていく。
総 時 間 数			117	

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	科	履修年次
公民	政治・経済（政治・経済）	2	普通科	3
履修形態	授業形態	指導者名		
選択	一斉授業	地歴公民担当者		

教科書（発行所）	『高校政治・経済』（実教出版）
教科書以外の教材（発行所）	『高校政治経済演習ノート』（実教出版） 『新センター現社2019』

目 標	広い視野に立って、民主主義の本質に関する理解を深めさせ現代における政治、経済、国際関係などについて客観的に理解させるとともに、それらに関する諸課題について主体的に考察させ、公正な判断力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。		
学習のねらい	- 現代の日本の政治及び国際政治の動向について関心を高め、基本的人権と議会制民主主義を尊重し擁護することの意義を理解させるとともに、民主政治の本質について探究させ、政治についての基本的な見方や考え方を身に付けさせる。 - 現代の日本経済及び世界経済の動向について関心を高め、日本経済の国際化をはじめとする経済生活の変化、現代経済の機能について理解させるとともに、その特質を探究させ、経済についての基本的な見方や考え方を身に付けさせる。 - 政治や経済に関する基本的な理解を踏まえ、現代の政治や経済の諸課題を追求する学習を行い、望ましい解決の在り方について考察させる。		
定期考査	出題方針	教科書の内容を中心に演習ノートなどから出題する。	
	範囲 （予定）	第1回考査	現代経済の変容、現代経済のしくみなど
		第2回考査	現代経済と福祉の向上、世界経済と日本など
		第3回考査	日本国憲法の基本的性格、日本の政治機構
		第4回考査	現代の民主政治ほか
評価の観点・ 評価の方法	○評価の観点とは、現代社会の諸問題への関心・意欲・態度、社会科学的な見方や考え方、資料活用・表現、知識・理解の4項目とする。 ○具体的な評価は、定期考査に加え、授業中の作業・演習で考察し、まとめた提出プリント、長期休業時や小テストなどを適切に活用して総合的に行う。知識・理解を7割から8割。授業中・休業中などの課題提出・授業中の小テストなどを2割から3割。それぞれのトータルで最終評価する。		
先生からアドバイス （予習・復習の方法、授業の受け方、ノートの取り方など）	- 新聞・ニュース報道・インターネット等により社会の情報を早く収集整理し、現代社会が抱える諸問題を公正な立場から分析理解しよう。さらに、現代社会を成り立たせている過去の歴史や文化について考察してみよう。 - 問題演習プリントも配布するので、短い時間を有効に使って解いてください。		

年 間 授 業 計 画 表						
学期	月	単元	学 習 内 容	時数	学習のポイント	
前 期	4	第2編	第2編 現代の経済 第1章 現代経済の変容	10	・経済の基本的な概念や経済理論を学習することによって、現代経済の特質について考察する。 ・経済主体（家計・企業・政府）が互いにどのように関わりあいながら国民経済を構成しているのかを理解する。	
	5		第2章 現代経済のしくみ		・金融・財政の基本的なしくみや役割および直面する課題について理解する。 ・経済成長と景気変動に関する基本的なしくみを理解する。	
	6		第3章 現代経済と福祉の向上 《第1回考査》	10	・戦後の日本経済のあゆみについて、生産者・消費者・政府それぞれの立場からその変化や課題を考察する。 ・農業問題や社会保障など日本経済が直面する課題について理解し、今後の展望を考察する。	
	7		第4章 世界経済と日本 《第2回考査》	8	・貿易の意義や国際収支、為替相場の仕組みなど国際経済に関する基本的な概念や理論を理解し、国際経済における日本が果たすべき役割について考察する。 ・地域統合や貿易摩擦など国際経済を取り巻く課題を考察する。	
	9		第1編	第1編 現代の政治 1章 民主政治の基本原則 2章 日本国憲法の基本的性格	10	・日本国憲法の制定過程や三大原理について歴史的な経緯を踏まえながら、また具体的な事例に即しながら、理解する。 ・基本的人権が確立するまでの歩みを理解しながら、現代の政治の特質について考察する。
	10			3章 日本の政治機構 《第3回考査》	8	・民主政治の本質を把握しながら、政治と私たちとの関わりについて理解する。 ・立法・行政・司法のあり方について、問題点も含め幅広い視点から考察する。
11	4章 現代日本の政治 《第4回考査》	10		・人権保障、国民主権、法の支配など、民主主義の原理やその発達について理解する。 ・戦後日本の政治のあゆみを通じて政党政治の特徴や課題を理解する。 ・日本の選挙制度の特質を理解するとともに、のぞましい政治や政治参加のあり方について考察する。		
後 期	12	第1編	5章 現代の国際政治 《第4回考査》	8	・国際社会や国際法に関して理解する。 ・国際連合や国際機関の役割と課題について理解する。 ・戦後および冷戦終結後の国際社会の動向について理解する。 ・国際社会における日本の地位と役割を考察する。 ・資本主義経済の特徴を、社会主義経済の特徴と比較し理解する。	
	1		第3編	第3編 現代社会の諸課題 1章 現代日本の諸課題	7	・平和主義、情報化、地方自治、小さな政府、産業構造の変化、中小企業、農業・食糧問題など現代の日本が直面している諸課題について考察する。
	2			2章 国際社会の諸課題 入試問題演習（問題集・プリント）	7	・国際政治・国際経済が直面する諸課題について 国際的な視点から追究しながら、日本の役割について考察する。 入試問題を通じて課題の理解を深める。
				総 時 間 数	78	

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	科	履修年次
公民	現代社会	2	理数科	3
履修形態	授業形態	指導者名		
全	一斉授業	地歴公民科担当者		

教科書（発行所）	現代社会（東京書籍）
教科書以外の教材（発行所）	

目 標	人間の尊重と科学的な探求の精神に基づき、広い視野に立って現代の社会と人間について理解を深め、現代社会の基本的問題について主体的かつ公正に判断し、自らの生き方についての指針を探り、良識有る公民としての能力と態度を育てる。		
学習のねらい	1 現代に生きる私たちの課題 大衆化、少子高齢化、高度情報化、国際化など現代社会の特質と社会生活の変化について理解させる。また、生涯における青年期の意義と自己形成の課題について考えさせるとともに、自己実現と職業生活、社会参加に触れながら、現代社会における青年の生き方について自覚を深めさせる。 2 現代の社会生活と青年 大衆化、少子高齢化、高度情報化、国際化など現代社会の特質と社会生活の変化について理解させる。また、生涯における青年期の意義と自己形成の課題について考えさせるとともに、自己実現と職業生活、社会参加に触れながら、現代社会における青年の生き方について自覚を深めさせる。 3 現代の経済と国民福祉 現代の経済社会における技術革新と産業構造の変化、企業の働き、公的部門の役割と租税、金融機関の働き、雇用と労働問題、公害の防止と環境保全について理解させるとともに、個人と企業の経済活動における社会的責任について考えさせる。 4 日本国憲法と民主政治 基本的人権の保障と法の支配、国民主権と議会制民主主義、平和主義と我が国の安全について理解を深めさせ、日本国憲法の基本的原則について国民生活とのかかわりから認識を深めさせるとともに、世論形成と政治参加の意義について理解させ、民主政治における個人と国家について考えさせる。 5 国際社会と人類の課題 世界の主な国の政治や経済の動向に触れながら、人権、国家主権、領土に関する国際法の意義、人種・民族問題、核兵器と軍縮問題、我が国の安全保障と防衛、資本主義経済と社会主義経済の変容、貿易の拡大と経済摩擦、南北問題について理解させ、国際平和や国際協力の必要性及び国際組織の役割について認識させるとともに、国際社会における日本の果たすべき役割及び日本人の生き方について考えさせる。		
定期考査	出題方針	教科書内容ベースの授業プリント、毎時確認作業プリントをメインに基礎基本中心に発展問題も出題する。	
	範囲 (予定)	第1回考査	現代に生きるわたしたちの課題 現代の社会生活と青年
		第2回考査	現代の経済と国民福祉
		第3回考査	日本国憲法と民主政治
		第4回考査	国際社会と人類の課題
評価の観点・ 評価の方法	○評価の観点は現代社会の諸問題への関心・意欲・態度、社会科学的な見方や考え方、資料活用・表現・知識・理解の4項目とする。 ○具体的な評価は定期考査に加え、毎授業ごとの配布作業プリント（演習作業・新聞記事発表作業）、課題提出などを適切に活用して総合的に評価する。		
先生からアドバイス (予習・復習の方法、 授業の受け方、ノート の取り方など)	リアルな世界の動きを把握するために、新聞・ニュース報道・インターネット等で情報を早く収集整理し、現代社会が抱える諸問題を公正な立場から分析理解してゆきましょう。また現代社会を成り立たせている過去の歴史や文化について考察し国際社会に生きる倫理と使命を展望してみよう。		

年間授業計画表					
学期	月	単 元	学 習 内 容	時数	学習のポイント
前期	4	第1部	現代に生きる私たちの課題 ①地球環境を考える ②資源・エネルギー問題とわたしたちの生き方 ③科学技術の発達と生命 ④日常生活と宗教と芸術とのかかわり ⑤豊かな生活と福祉社会のあり方	10	・環境問題の原因と対策 ・資源の枯渇問題と新エネルギー開発 ・各廃棄物の処理問題とリサイクル法 ・医療器具や遺伝子医療の発展と尊厳死・臓器移植の持つ意味 ・現代と宗教の動向 ・最低限の生活の維持と福祉行政の矛盾
			現代の社会生活と青年 1 現代社会の特質とわたしたちの生活 2 現代社会と青年の生き方 3 よりよく生きることを求めて	10	・第二の誕生、バースト・シンタムなど ・アゲイン・イン、思春期障害など ・職業の意義、職業選択、フリーター ・若者文化
	5	第2部	現代の経済社会と経済活動 1 経済の仕組み 2 政府の経済的役割 3 変化する日本経済 4 豊かな生活の実現	16	・ハイテク産業、エレクトロニクス産業、バイオテクノロジー ・市場の自動調節作用、需要供給法則 ・金融の役割、金融市場 ・経済主体、財政の役割、予算 ・高度経済成長、バブル経済と崩壊 ・公害、四大訴訟、公害対策 ・日本の雇用、雇用制度の変化 ・社会保障制度と日本の制度
	6	第3部	日本国憲法と民主社会 1 民主政治とは 2 日本国憲法と基本的人権 3 国会・内閣・裁判所	18	・人権思想と社会契約説 ・国民主権と参政権、多数決原理 ・議会制民主主義、権力分立、大統領制 ・明治憲法の特徴、日本国憲法の原理 ・憲法第9条、自衛隊の海外出動 ・基本的人権の性格、法の下での平等 ・国会の地位と役割、議院内閣制、司法権の独立
	7		《第1回考査》		
	8		《第2回考査》		
	9		《第3回考査》		
	10	第4部	国際社会と人類の課題 1 国境を越える経済 2 ボーダレス化のなかの地域 3 国際社会の成立と戦後の動き 4 国際社会の課題	17	・国際法の意義と現実社会の動向と変容 ・国連中心の国際組織の役割と限界 ・NGO等の国際組織の動向と役割 ・冷戦後の国際社会の動向と多極化 ・人権保障と人種・民族問題 ・核兵器と軍縮の動向の現状 ・冷戦後の市場経済の展開の動向 ・グローバリゼーションと南北問題 ・経済的格差の問題と是正 ・地球的問題と動向とその課題展望 ・人類の連帯と日本の果たすべき使命
	11		《第4回考査》		
	12		1年間のまとめ	7	
	1		総 時 間 数	78	